
[成果情報名] くくりわなのハードル式設置法によるシカの効率的な捕獲

[要約] シカの通り道に高さ20～30cm、長さ50cm以上の倒木を置き、倒木から約30cmの位置にくくりわなを設置するハードル式設置法によりシカを効率的に捕獲できる。

[キーワード] シカ、捕獲、くくりわな、倒木、ハードル式設置法

[担当部署] 森林林業部；森林管理チーム

[連絡先] 0942-45-7982

[対象項目] 野生鳥獣

[専門項目] 鳥獣害対策

[成果分類] 技術改良

[背景・ねらい]

シカによる農林業被害を軽減するために、本県では第2種特定鳥獣（シカ）管理計画を策定し、シカ生息数の抑制を図っているが、生息数は依然として増加している。捕獲を担う狩猟者は、銃器許可者の減少や高齢化が進み、現状以上の捕獲数を達成することが困難になりつつある。最近、シカの捕獲は簡易で安価なくくりわなによる捕獲が半数を超えており、捕獲数を増やすためには捕獲効率の向上が強く求められている。

そこで、効率的にシカを捕獲できるくくりわなの設置方法を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 高さ20～30cmの倒木を通過したシカの蹄痕の約70%は、倒木から20～35cmの範囲にある（図1）。
2. シカの通り道に高さ20～30cm、長さ50cm以上の倒木を置き、倒木から約30cmの位置にくくりわなを設置するハードル式設置法（図2）は、シカの通路にくくりわなのみ設置した方法にくらべ、捕獲効率（わな1台・100日あたりの捕獲数）が約2倍に向上する（図3）。

[成果の活用面・留意点]

1. 鳥獣害防止対策協議会での捕獲技術研修等の資料に活用できる。
2. 特別な用具・スキルが不要なため、直ちに捕獲現場で活用できる。
3. 設置する倒木は小さい倒木や石などを積み重ねて設置しても良い。
4. くくりわなに岩塩やヘイキューブ等の誘引餌を併設する方法では、捕獲効率は向上しない。

[具体的データ]

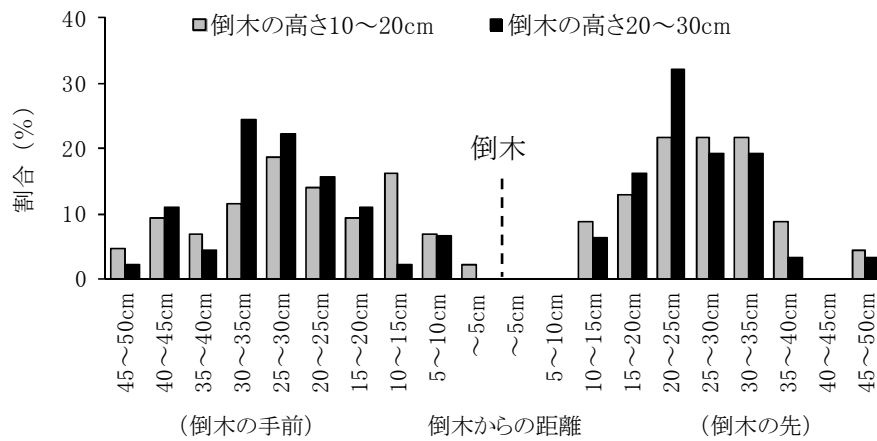


図1 倒木からシカの蹄痕までの距離（平成27年）

注）朝倉市、東峰村で19か所の倒木から50cm以内の142個の蹄痕を調査。

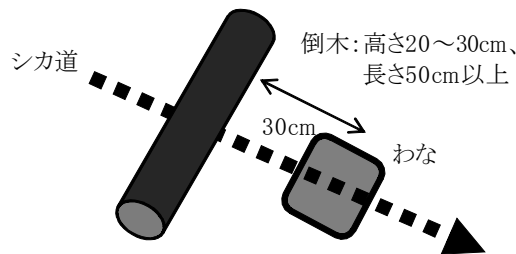


図2 くくりわなのハードル式設置法

注）シカの通路上に高さ20～30cm、長さ50cm以上の倒木を通路に直角に置き、倒木からシカの進行方向へ約30cmの位置にわなを設置。

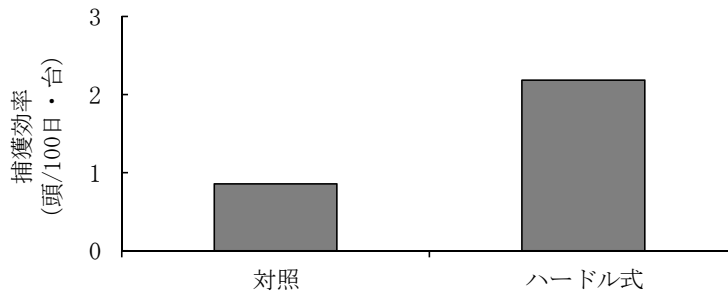


図3 ハードル式設置法の捕獲効果（平成27～28年）

注）1. 調査は朝倉市の森林、果樹園の3か所で4回実施し、1回あたり9～25台のくくりわなを3か月間設置。
2. 対照はシカの通路にくくりわなのみ設置。

[その他]

研究課題名：誘引餌を用いた効率的なシカ捕獲法の開発

予算区分：県単B

研究期間：平成27年度（平成25～27年度）

研究担当者：檜崎康二、佐々木重行、桑野泰光

発表論文等：第72回九州森林学会大会